

# 10-B タブノキ(楯の木)の巨木 クスノキ科タブノキ属 Machilus thunbergii

(別名・イヌグス)

クスノキ科の樹木では、クスノキとタブノキはよく混同される。葉の形と付き方で識別できる。



クスノキの葉



タブノキの葉・輪生状に見える。



カゴノキの葉・葉よりは樹肌を見る。

## ■主なタブノキの巨木位置図



## ■タブノキの巨木評価基準

- A おおむね幹周 10m 以上の単幹樹、同等評価のタブノキの巨木。
- B おおむね幹周 6~10m の単幹樹、同等評価のタブノキの巨木。
- C B 評価以下のタブノキの巨木。

## ■主なタブノキの巨木

2015 年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 都道府県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
B	府馬の大クス 写真 T-001	M9.15m(1.3m 2007)	20m	千葉県香取市府馬 2395 宇賀神社	国
B	波崎の大タブ 写真 T-002	M8.4m(1.3m 2008)	15m	茨城県神栖市波崎	県
B	滝の入タブの木 写真 T-003	M6.5m(1.3m 2008)	20m	埼玉県飯能市上直竹字下分	県
B	長坂の大いぬぐす 写真 T-004	M6.85m(1.3m 2012)	13m	富山県水見市長坂字前田	県

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
B	上村家のタブの木 写真 T-005	M9.3m(分岐 1.2m 2014)	17m	福井県三方上中郡若狭町三宅	県
B	津富浦のタブノキ 写真 T-006	8.0m	30m	千葉県成田市津富浦	なし
B	假宿のなげどん 写真 T-007	7.3m	23m	鹿児島県曽於郡大崎町仮宿上	市
B	峰山神社のタブノキ 写真 T-008	7.1m	41m	岐阜県揖斐郡揖斐川町檜原	なし
B	天満神社のタブノキ 写真 T-009	M7.92m(1.3m 2009)	18m	福井県福井市北菅生町	なし
C	鹿島路のタブノキ 写真 T-010	M9.15m(1.3m 2007)	18m	石川県羽咋市鹿島路町	市
C	古里附のイヌグス 写真 T-011	8.07m	15m	東京都西多摩郡奥多摩町棚澤 7-2	都
C	高爪神社のタブ 写真 T-012	M7.89m(1.3m 2007)	12m	石川県羽咋郡志賀町大福寺	町
枯死	小浜神社の九本ダモ 写真 T-013	株周 11.0m	18m	福井県小浜市城内 1 丁目	国



写真 T-001 旧日本一のタブノキ

### ふま おお 府馬の大クス

かつて日本一のタブノキとされたが、2013年の台風によって主幹右手が崩れ、半壊した(下写真)。このことによって、幹周に大きく変化があり、日本一の座は空白とした。

クスと呼ばれるが、タブノキの誤認である。2007年時、地上3mで2分岐する樹形で、主幹はかなり朽ちている様子であった。斜上する幹も、その上で分岐する幹も朽ちて、水平に伸びた大枝も途中で破損、かなり樹勢の衰えが見られた。

府馬集落中程、高台にある宇賀神社の境内にあり、社殿は小さく、タブノキの方が圧倒的に大きく、周囲を威圧する雰囲気だ。1988年に訪問した時は、鬱蒼とした空間に神秘的に鎮座していた記憶があるが、周辺は公園として整備されていて、かつての薄暗さは全くなかった。常に美しく清掃され、地元の人々に手厚く守られている様子が伺える。

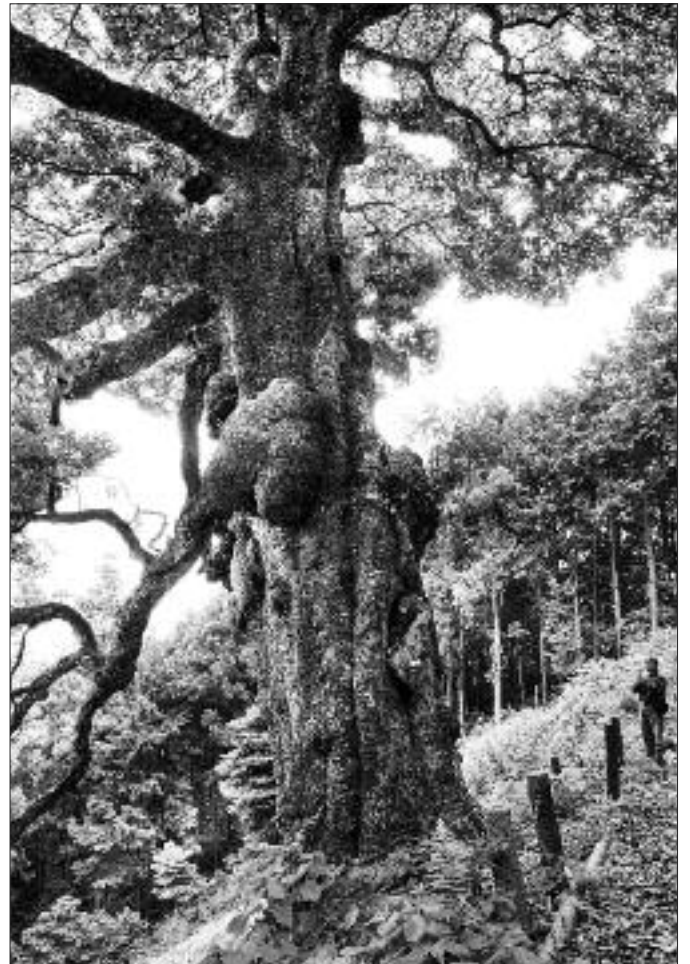


▲半壊した主幹。(写真・石田徹)



▲写真 T-002  
はさき  
波崎の大タブ

神善寺の境内入口に立つ。周囲を石仏で囲まれる神秘的な環境にある。主幹には大きなコブがあり、背後は大きく崩れ、古株が存在する。大枝は水平に何本も出て、巨大な樹冠を形成している。



▲写真 T-003  
たきのいり  
滝ノ入タブの木

富士浅間神社の裏山の遊歩道沿いの斜面に立つ。主幹にコブが多い。

▼写真 T-004  
ながさか  
長坂の大いぬぐす

道路沿いの見晴らしのよい空間に立つ見事なタブノキ。3mで多数に分岐して壮大な樹冠を形成する。





▲写真 T-005  
うえむらけ  
**上村家のタブの木**

株立ちのタブノキであるが、圧倒的な迫力がある。



▲写真 T-006  
つぶうら  
**津富浦のタブノキ**

津富浦小学校の南、民家の裏手に立つ。主幹はすぐ2分岐し、一本は破損するが、見事なタブノキである。(写真・石田徹)



◀写真 T-007  
かいじゆく  
**假宿のなげどん**

堂々たるタブノキで、地上2.5mで多数に分岐し、円錐状に枝葉を広げる樹形。(写真・Web画像)

▼写真 T-009  
てんまん  
**天満神社のタブノキ**

地上1mで水平に出る幹があり、幹周は根元近くのくびれた部分を測定した。



◀写真 T-008  
みねやま  
**峰山神社のタブノキ**

境内にはタブノキやケヤキの巨木が多く、鬱蒼としている。その中で最大株が本樹で途中で大小二分岐しているものの、見事なタブノキだ。(写真・Web画像)





▲写真 T-010  
かしまじ  
鹿島路のタブノキ

「森ノ宮のタブノキ」ともいわれ、地上1~1.5mで6分岐する樹形。樹勢は弱っている。

幹周 M9.15m で、日本一のタブノキであった「府馬の大クス」と同じであるが、測定部のみが膨らむ樹形で、C 評価である。巨木評価は、幹周の数字だけではできない好例であろう。



▲写真 T-011  
こりつぎ  
古里附のイヌグス

国道と鉄道に挟まれた狭い空間に春日神社があり、その前に立つ。地上1.5mで二分岐し、南幹は枯死する。幹周8.07mは分岐幹の合計か?。

(写真・Web画像)

◀写真 T-012  
たかつめ  
高爪神社のタブ

神社境内の端に立ち、主幹は半壊状態で、着生木が多く見られる。



◀写真 T-013  
枯死  
おぼま  
小浜神社の九本ダモ

根元近くで9本に分岐していた巨大なタブノキであったが、2003年に枯死した。1983年撮影。

# 10-C カゴノキ(鹿子の木)の巨木

クスノキ科カゴノキ属  
Actinodaphne lancifolia

## ■主なカゴノキの巨木位置図



## ■カゴノキの巨木評価基準

- A おおむね幹周 7m 以上の単幹樹、同等評価のカゴノキの巨木。
- B おおむね幹周 4~7m の単幹樹、同等評価のカゴノキの巨木。
- C B 評価以下のカゴノキの巨木。

※カゴノキは、幹に鹿子模様が入る特徴があり、巨木評価では、幹周の数字を参考に、鹿子模様の美しさも評価の対象となる。

## ■主なカゴノキの巨木

2015 年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
B	大下家のコガノキ 写真 K-001	M6.5m(1.2m 2009)	15m	愛媛県大洲市豊茂甲 794	市
B	小川神社のカゴノキ 写真 K-002	M5.65m(1.8m 2009)	15m	福井県三方上中郡若狭町	県
B	大野山のコガノキ 写真 K-003	6.0m	13m	愛媛県新居浜市大生院大野山	なし
B	地蔵森のカゴノキ 写真 K-004	M5.15m(分岐 0.5m 2008)	15m	徳島県美馬郡つるぎ町一字河内	町
B	池田のカゴノキ 写真 K-005	M7.57m(分岐 0.4m 2014)	10m	京都府福知山市池田大神宮	市
B	白坂のカゴノキ 写真 K-006	6.7m	12m	愛媛県西条市丹原町白坂	市
B	松の窪のコガノキ 写真 K-007	5.6m	12m	愛媛県大洲市河辺町植松	市
B	多和目のカゴノキ 写真 K-008	株周 4.7m	15m	埼玉県坂戸市多和目	市
B	小仏のカゴノキ 写真 K-009	4.0m	15m	東京都八王子市高尾町 1785 宝珠寺	市
B	清正公神社のカゴノキ 写真 K-010	3.2m	10m	長崎県西海市西彼町平原郷	町

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
B	今滝寺のカゴノキ 写真 K-011	M4.23m(1.3m 2014)	16m	兵庫県養父市八鹿町今滝寺	県
B	地藏院のカゴノキ 写真 K-012	3.7m	29m	東京都あきる野市雨間 1101	市
B	赤崎八幡神社のカゴノキ 写真 K-013	M4.54m(1.3m 2014)	14m	福井県敦賀市赤崎	市
C	田峰観音のカゴノキ 写真 K-014	株周 M3.7m(0.5m 2007)	15m	愛知県北設楽郡設楽町田峯字鍛冶沢 14	なし
C	砂川のカゴノキ 写真 K-015	M4.2m(1.3m 2015)	8m	静岡県浜松市天竜区春野町砂川	なし
C	津島神社のカゴノキ 写真 K-016	株周 6.07m(1.0,m 2015)	13m	愛知県豊田市市平町西	市
C	山田家のカゴノキ 写真 K-017	3.7m	17m	神奈川県小田原市入生田 110	市
C	但沼神社のカゴノキ 写真 K-018	M3.9m(1.5m 2014)	15m	静岡県静岡市清水区但沼町	なし
C	大利八幡神社のカゴノキ 写真 K-019	3.33m	10m	徳島県三好市池田町大利古畑	なし

## 写真 K-001

### 日本一のカゴノキ

#### おおしたけ 大下家のコガノキ

「大下家のコガノキ」は、「豊茂のコガノキ」とも「長浜のコガノキ」とも呼ばれる。

●徳島県つぎ町「地藏森のカゴノキ」幹周 9.35mとされるが、実際は3分岐の合計周である。M5.15m(分岐 0.5m)

●京都府福知山市「池田のカゴノキ」幹周 7.7mとされるが、実際は分岐幹で、かなり衰弱している。M7.57m(分岐 0.5m)

大下家のカゴノキは、幹周 9.5mとされるが、2009年の調査で、西半分の幹が朽ちて、枯れた幹が残り、東幹が生きている。幹周を測定すると M6.5m(1.2m)という結果。随分小さくなった。

細い町道と谷側の斜面のわずかな空間に立ち、主幹は地上 1～2.5mで5分岐し、鹿の子模様の幹を広げ、半分枯れたとはいえ樹勢は旺盛である。樹下には「こがのき」の石柱の他、明治期に建てられた巨大な石板等が多く、かつて樹形が見事な時期には、有名な存在であった事が伺える。今は訪れる人もなく、夏草が生い茂っていた。



◀ 背後の樹形  
主幹背後は崩れ、かつては倍程の幹周があったことが伺える。





▲写真 K-002

おがわ  
**小川神社のカゴノキ**

神殿前、石段と玉垣に囲まれた空間に立ち、鹿子模様が実に美しいカゴノキ。主幹は石段と石垣に接しているため、幹周測定は上部接地面周囲。



▲写真 K-003

おおのやま  
**大野山のコガノキ**

廃村に立つカゴノキの巨木。(写真・Web 画像)



写真 K-004▶

じぞうもり  
**地蔵森のカゴノキ**

古い墓所に立つカゴノキの巨木。主幹が枯れ、右から出る側幹が巨大化し、枯れた主幹と融合する。





◀写真 K-005

いけだ  
**池田のカゴノキ**

北向地藏尊の御神木としてムクノキと共に立つ老樹。カゴノキは根元近くで3分岐し、一本は白骨化(写真左側)、残りの二本も樹勢は弱っている。生きている主幹の鹿子模様が美しい。



▲写真 K-006

うすさか  
**白坂のカゴノキ**

「柳曾のカゴノキ」とも呼び、主幹上部で分岐する。(写真・石田徹)



写真 K-007

まつ くぼ  
**松の窪のコガノキ**

松窪城跡に立つ分岐幹樹形。(写真・Web 画像)



▲写真 K-008 (写真・Web 画像)

たわめ  
**多和目のカゴノキ**

天神社境内に立つ。根元から2分岐し、融合して立上がる。鹿子模様が美しい。



▲写真 K-009

こぼとけ  
**小仏のカゴノキ**

宝珠寺にある見事なカゴノキ。(写真・Web 画像)



◀写真 K-010

せいしようこう  
**清正公神社のカゴノキ**

鹿子模様が美しい。(写真・Web 画像)



▲写真 K-011  
こんりゅうじ  
**今滝寺のカゴノキ**  
 今滝寺の裏山墓所に立つ。  
 5mで2分岐する。



▲写真 K-012  
じぞういん  
**地藏院のカゴノキ**  
 墓所の中に立つ。  
 (写真・Web 画像)



▲写真 K-013  
あかざき  
**赤崎八幡神社のカゴノキ**  
 本殿右手前に立つ。樹肌の鹿子模様が美しい。2mで3分岐する。



▲写真 K-014  
たみね  
**田峰観音のカゴノキ**  
 根元近くで大小5分岐し、上部で連理する。鹿子模様が美しい。

▼写真 K-017  
やまだけ  
**山田家のカゴノキ**  
 別名「入生田のカゴノキ」  
 (写真・Web 画像)



▲写真 K-015  
すなかわ  
**砂川のカゴノキ**  
 砂川自治会館横に立つ。主幹は空洞化し、樹高も低い。

▼写真 K-018  
ただぬま  
**但沼神社のカゴノキ**  
 神社下の山斜面に立つ。鹿子模様が美しい。



▲写真 K-016  
つしま  
**津島神社のカゴノキ**  
 社殿背後に立ち、根元で3分岐し、二本が連理する樹形。

▼写真 K-019  
**大利八幡神社のカゴノキ**  
 神社入り口に立ち、鹿子模様が美しい。(写真・Web 画像)

